

今こそ、地産地消

地元の安全・安心な農畜産物を『選ぶ』という地域おこし



地産地消：地域で生産されたものを、その地域で消費すること

者の間に「顔が見え、話ができる関係」が作られ、食べ物と食べ方の本来のあり方を双方がともに考え直し、地域の食文化の見直しなどにつながっていきます。

食の安全意識が高まっている今だからこそ、今まで以上に地元の食べものに目を向けてみましょう。

現在販売されている飛驒牛は安全です

7月末に放射性セシウムに汚染された疑いのある稲わらを餌として与えられた一部の牛の中で、すでに流通している牛肉については岐阜県のホームページで「個体識別番号」が公表され、流通を止めて現在検査が進められています。なお8月9日時点の検査結果で、放射性物質が国の暫定規制値を超えたものは一頭もありません(県のホームページで公表中)。

地産地消のさまざまな取り組みを通じて、消費者と生産

また、公表された個体識別番号以外の飛驒牛には、汚染された疑いのある稲わらが餌

8月は「飛驒高山やさいの日」



まず、地域のみなさんが一丸となり、飛驒牛を消費し地元ブランドを支えていきましょう。

域では、その恵みを活かし農畜産物の生産が盛んに行われています。

高山市地産地消推進会議と飛驒の野菜で「ごちそうプロジェクトチーム」では、8月31日の「やさいの日」にかけて8月をPR月間とし、野菜や飛驒牛など地元の農畜産物の地産地消を推進しています。

は、飛驒の食材を使ったメニューの提供や、飛驒産野菜の特設コーナーの設置などが行われ、「地元産食材」への注目度が高まっています。この機会に飛驒のおいしい食材を味わってください。

現在、市内の飲食店などで

問合先	農務課
35-3141	35-3141
35-3142	35-3142

被災地のがれき処分の受入れについて

東日本大震災の被災地で生じているがれきは、現在も被災地で処分が続けられています。

本年4月に環境省が全国の自治体に対して行った「被災地のがれき受入れの可否に関する調査」では、高山市は被災地支援の立場から「放射能汚染のない廃棄物に限って、処理能力の範囲内で受け入れることが可能」と回答しています。

市としては、放射能汚染を全国に拡散させるべきではないとの観点から、被災地のがれきに放射能汚染は全くないとの確証を得られていない現状では、被災地のがれきを受け入れることは考えていません。

また、現在までに、被災地からがれき処理の要請はなく、受け入れた事実もありません。

被災地への支援については、今後も引き続き取り組んでまいります。

問合先 生活環境課 ☎35-3138